かたかい　　ひ

片貝川の水を引く

あれ地を水田に

魚津の山・川・野

1 水田のはじまり

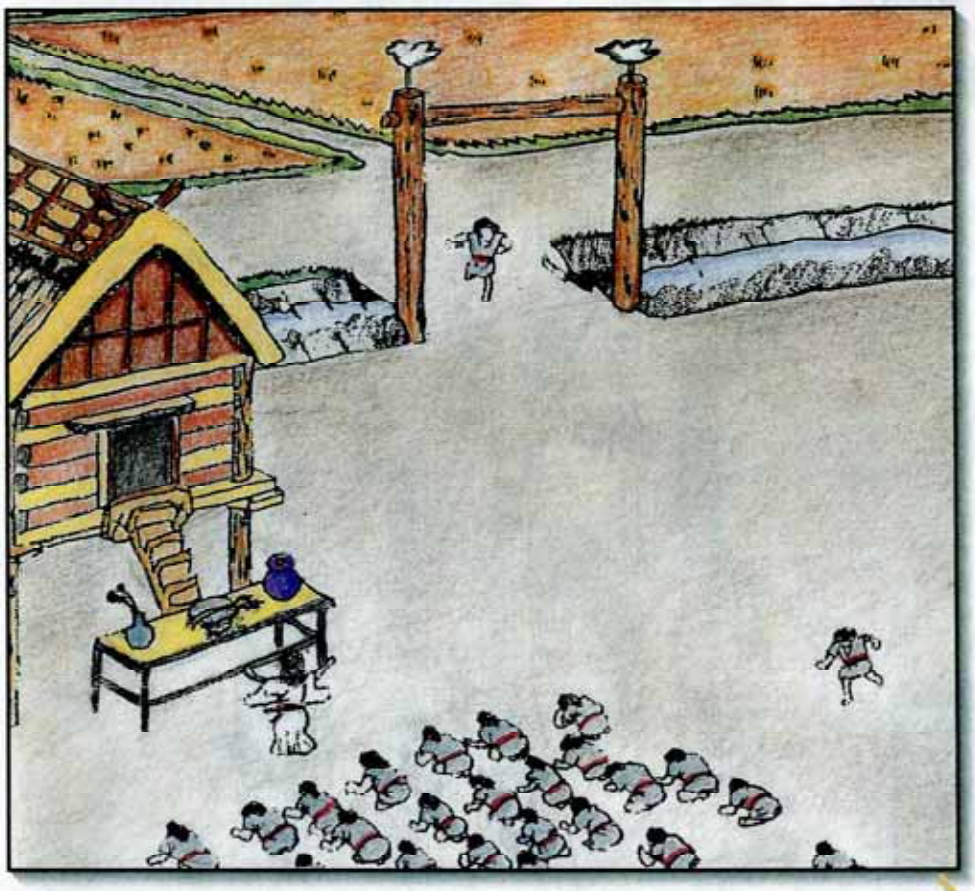
今から2000年ぐらい前の弥生時代、日本列島に米作りが伝わり、間もなく魚津地方でも、角川や布施川沿いの低地で米作りがはじまりました。

布施川ぞいの水田と古墳

角川ぞいの水田と住居跡

近くの川から用水を引き、木のくわで田おこしをしました。

苗を育て、田植えです。種モミを、直接田んぼにまくやり方もありました。



あっ！
石ぼうちょうで
稲かりしている

石ぼうちょう

秋には取り入れを行い、倉庫に米をたくわえました。そして収穫を祝う祭りをしました。祭りでは「銅たく」がならされ、イノシシやシカなどを生けにえにしました。

江戸時代初めごろの魚津の村

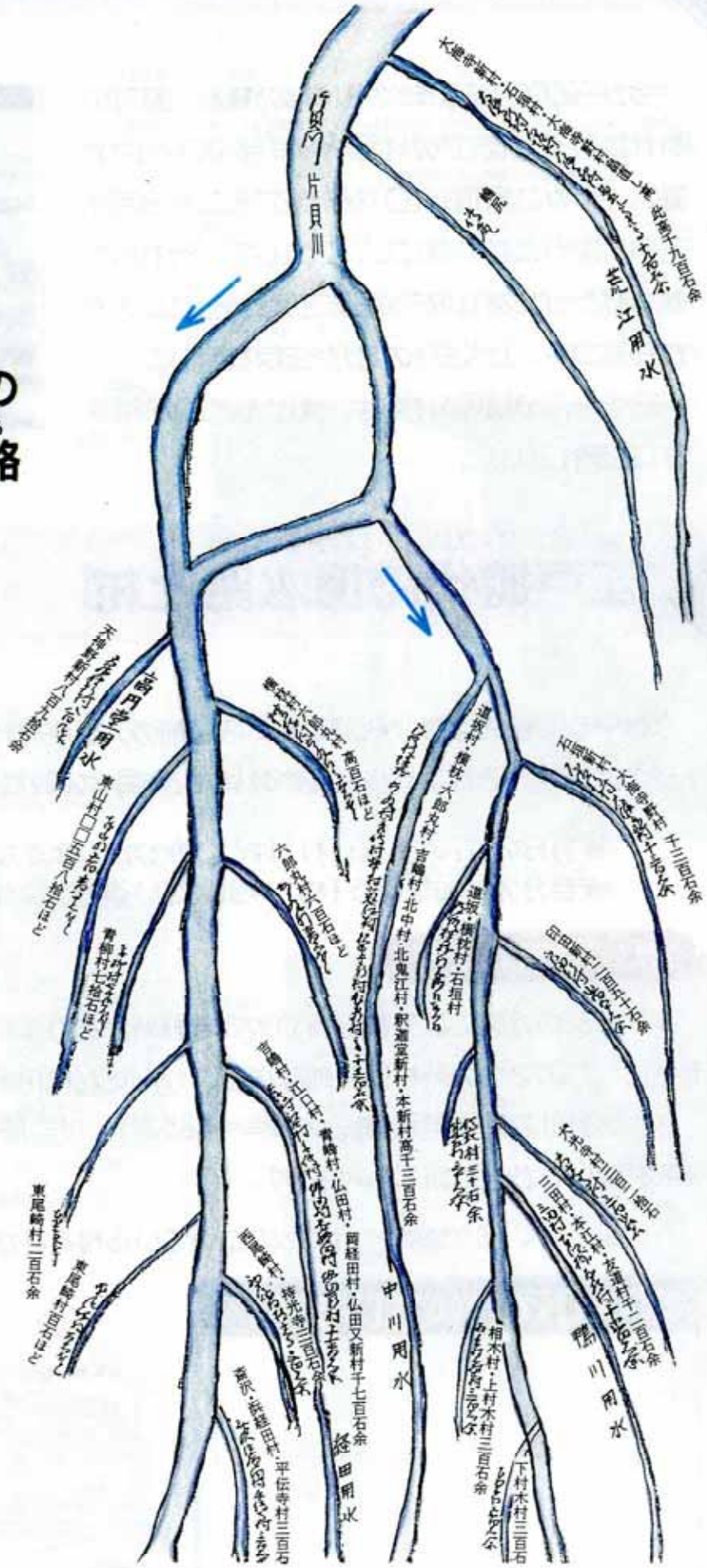
『越中四郡絵図』
原図：小矢部市蔵

北陸道：今の国道にあたる

里　道：村と村を結ぶ道

江戸時代中ごろの片貝川と用水路

原 図：入善町 蔵



2 鎌倉・室町時代ごろの村々

今から600～800年ぐらい前の鎌倉・室町の時代には、それまでの片貝川や早月川の※治水が進み、所々に堰(取入口)を作ってそこから用水を引くようになりました。こうして、それまで雑木林だったあれ地を水田に変え、そこに人々が住みつき、たくさんの村が生まれました。

3ページの絵図の村々は、ほとんどこの頃までに生まれました。

堰(取入口)のようす(昭和の初めころ)

3 江戸時代の用水路と村

3ページの絵図は今から350年ぐらい前の、江戸時代初めごろの村名図です。4ページの絵図は、それより少し後の片貝川と用水の図です。

★自分の住んでいる『村』はどこかわかりますか？
★自分の住んでいる『村』へ引いている用水はどれかわかりますか？

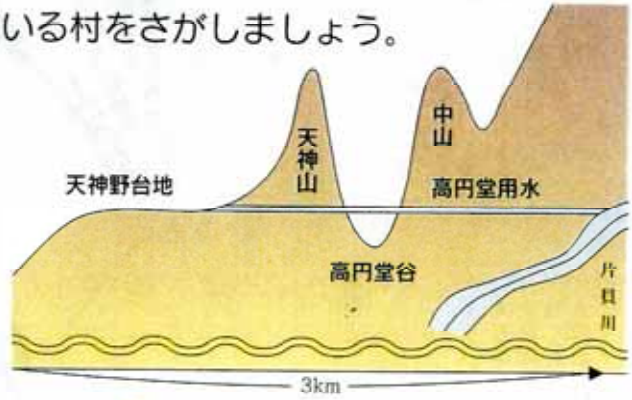
新しく生まれた村

4ページの絵図には天神野新や大海寺野新がありますが、3ページの絵図にはありません。この2つの新村は台地なので、かんたんに用水が引けなかったからです。

2つの村は高円堂用水(慶安4年＝1652年)、荒江用水(延宝元年＝1673年)を引き、水田を開いてできた新しい村です。

★4ページの絵図で『新』のついている村をさがしましょう。

◎『新』のついている村



※治水…用水を利用しやすくするよう水の流れをつくることや、洪水になるのを防ぐこと

4 高円堂用水引きの苦心

天神野台地は、今は広々とした水田が広がってますが、江戸時代の初めまでは、所々に畑があるだけで、雑木林でおおわれていました。

加賀藩の山本清三郎は、東尾崎村からの願いをきっかけに、天神野台地に用水を引き、水田をひらくことを計画しました。

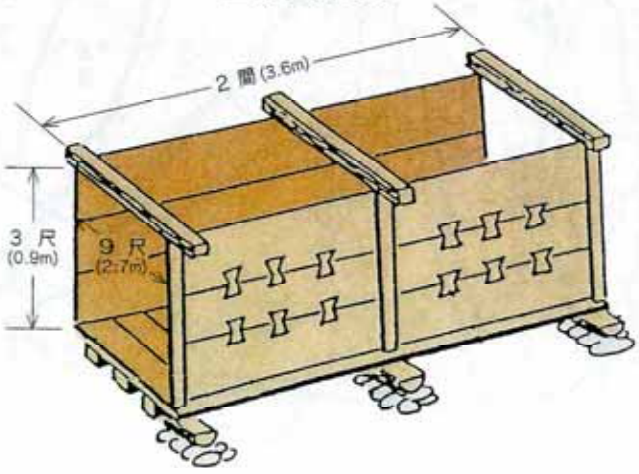
そのためには高円堂谷を高さ20メートル、長さ200メートルにわたって盛土し、その上に用水を通さなければなりません。くわともっこの人力だけで大きな堤を作れたのでしょうか。

はたして完成しないうちに、雨のために堤は崩れてしまいました。人々は、人柱をささげて工事が進むことを祈ったと言い伝えられています。

工事は慶安元年(1649年)にはじめられ、慶安4年にいちおう完成しました。

現在の高円堂用水

工事のようす



高円堂谷のうえを通した木のとい

人柱を供養した※板碑

※板碑…石を板のように加工した碑

5 明治時代の用水

下の図は、今から110年ほど前の明治時代の用水図です。

★4ページの江戸時代の用水とどんなところがちがっているでしょう。

★このようにたくさんの用水ができても『水あらそい』がおきました。水あらそいについて調べてみましょう。

明治二十二年 魚津付近の用水

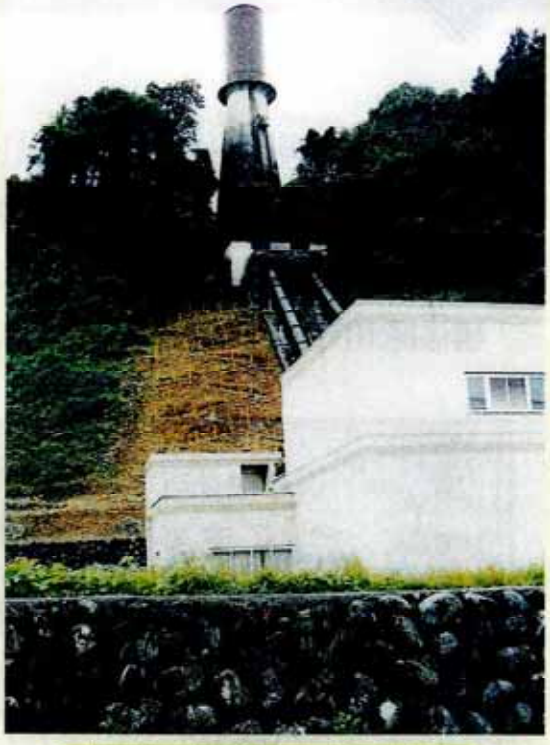
6 現在の合口用水

現在の片貝川沿岸用水は、1,800ヘクタールの水田に水を送っています。それだけの水田をうるおすために、春の耕作時には毎秒25立方メートルの水が必要です。各用水に必要な水量をうまく配分するには、取入口を一つにする必要があります。そのための工事は昭和13年（1938年）にはじめられ、30年（1955年）にようやく完成しました。

合口用水のおもな施設

黒谷頭首工（合口取水工・黒谷）

片貝川の水をせき止めて、
まとめて取水する施設

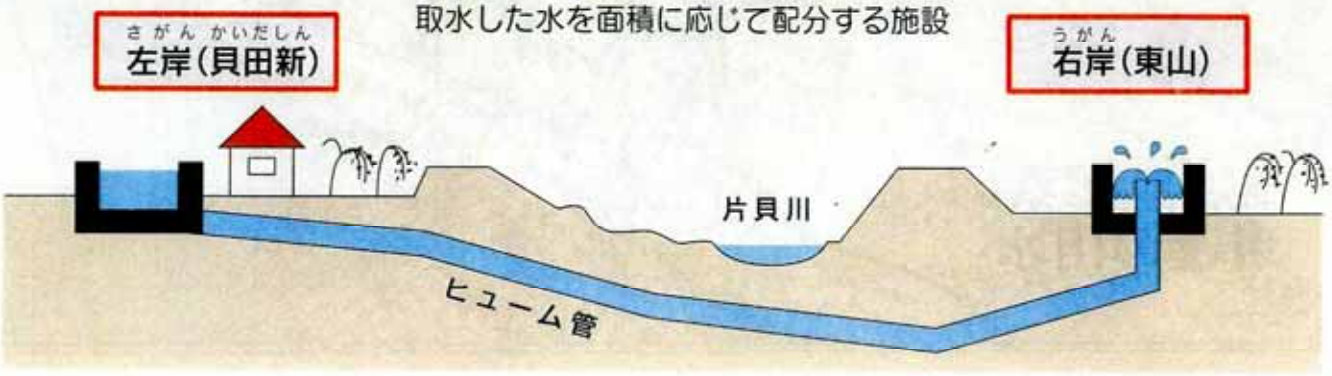


片貝谷発電所（貝田新）

まとめて取水した水を
発電に利用している

右岸の円筒分水槽（東山）

取水した水を面積に応じて配分する施設



円筒分水槽のしくみ

7 水害とのたたかい

1 くりかえされる洪水

片貝川は全国でも指折りの急流で、大昔からつゆ時になると、毎年のように大水になり家が流されたり、刈り取り前の稲が石やどろにうまりました。そのため、人々は堤防を作り、川の流れをコントロールすることを考えました。

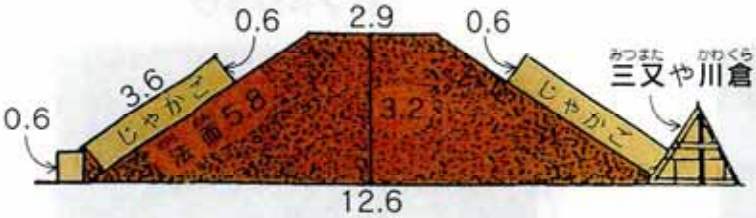
濁流にのみこまれる民家
（前平沢）

大洪水
奥は「川中島」となった貝田新集落

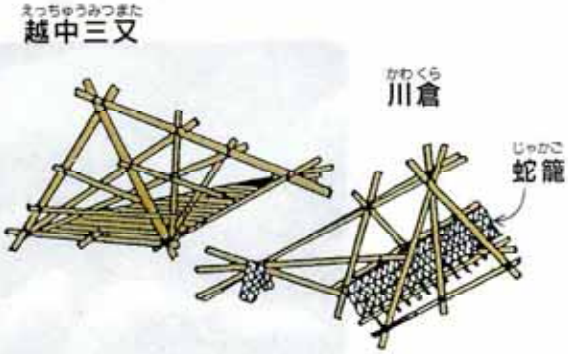
片貝川のはんらん
（平沢橋）

2 堤防をつくる

江戸時代中ごろ（宝暦８年＝1758年）の片貝川堤防作りの記録があります。
三又・川倉を用い、堤防を強くしています。



断面（単位はメートル）



このようながっちりした堤防を宝暦８年だけで、合わせて1,200メートルも作りました。

川底を掘って、流せる水の量を増やす工事もしています。しかし、このような堤防でも大水でしばしば破られました。

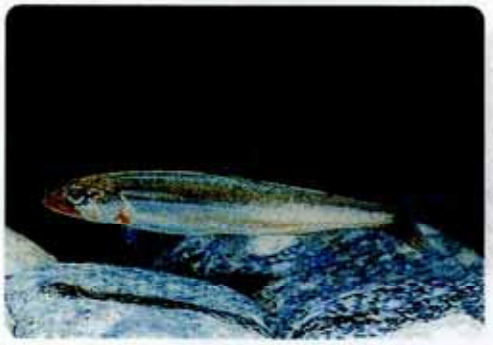
8 水をよごさないように

きれいな水を守るため下水処理場をつくり、生活排水や工場から出る排水をきれいにして、川の水がよごれないようにしています。

あきカンやゴミを、川にすてないようにしましょう。

下水処理施設（東城）

9 川と生き物



アユ

シマドジョウ

カマキリ（アユカケ）

カジカ

年　　組　　なまえ

富山県魚津農地林務事務所　富山県農村環境創造基金事業